

1 部

学習サポート

各種申込締切について

『試験・スクーリング情報ブック』にてご確認ください。

- ・ 学年暦→2020年度版・2021年度版 p. 4～5
- ・ 通信教育部カレンダー
→ (3月) 2020年度版 p. 28～29 (4、5月) 2021年度版 p. 6～9
- ・ 演習・実習科目関連締切等
(社福) → 2020年度版 p. 40～43 2021年度版 p. 41～44
(精保) → 2020年度版 p. 44～46 2021年度版 p. 45～47

2021年4月以降の変更・留意点

- 2020年度以前入学の方は、『試験・スクーリング情報ブック2021』 p. 30～39で必ずご確認ください。

【主な変更点】

大学メールアドレスの付与、東京サテライト（四ツ谷）の閉鎖ほか

- 4月までの会場スクーリングの中止について

詳細は下記「新型コロナウイルス感染防止に関するお知らせ」をご参照ください。

新型コロナウイルス感染防止に関するお知らせ

新型コロナウイルス感染防止の観点から大学の方針で、4月までのスクーリングについて会場での実施は中止となりました。

オンデマンド・スクーリングの日程については、準備中だった科目も含めて、本冊子5部でご案内しております。

皆様にはご迷惑をおかけいたしますが、事情をご賢察のうえご理解くださいますよう、お願い申し上げます。

詳細は、下記にお知らせいたしますので、ご一読ください。

なお、ご不明な点は、通信教育部事務室までお問い合わせください。

本冊子でお知らせする内容は、今後の状況により随時変更となる可能性があります。急な変更や5月以降のスクーリング等も含め、最新情報は本学通信教育部ホームページ等でお知らせいたします。

◆4月まで、会場で行うスクーリングなどを中止

◆中止のスクーリング等およびその代替方法

- ・本冊子4部、別送の「新型コロナウイルス感染防止に伴う各種対応について（第7報）」をご参照ください。
- ・オンデマンド・スクーリングの申し込み等については、本冊子5部をご覧ください。

◆対面での学習相談および自習室の使用について

- 1) 平日のみ利用可能となっております。
- 2) 「利用申込書」を提出し、予約が必要です。
- 3) 本学通信教育部HPからダウンロードした「利用申込書」を利用希望日の1週間前までにメール添付で提出してください（提出先uc@tfu-mail.tfu.ac.jp）。
- 4) 郵送で提出する場合は、巻末の様式を使用し、利用希望日の1週間前までにお申込みください（返送先住所を明記し定形封筒に84円切手を貼付した返信用封筒を同封）。
- 5) 当日は学生証の提示が必須となります。
- 6) 学習相談は平日の下記①～⑤となり1日一人1回の利用となります。
午前（①10：00～10：30、②11：00～11：30）

午後（③14：00～14：30、④15：00～15：30、⑤16：00～16：30）

7) 自習室の利用可能時間は、平日の下記①②となり1日一人1回の利用となります（入室制限：1回4名）。

①10：00～12：00（120分） ②14：00～16：00（120分）

【注意事項】

- 1) 学習相談または自習室の使用を目的とした入構に限ります。
- 2) 1回の学習相談は最長30分以内、1回の自習室使用は最長120分以内となります。
- 3) 入館は開始時間5分前からになります。開始時間に遅れないようにお出でください。
- 4) 各終了時間には退室していただきます。
- 5) 入退館時は通信教育部職員が受付し、誘導いたします。
- 6) 入構時には、ご持参のマスク着用および出入口での検温と手指消毒が必要です。
- 7) 発熱のある方（体温37.5度以上）、体調不良の方は、入構することができません。
- 8) 疾患をお持ちの方やご高齢の方など感染により重症化しやすい方は、メールや電話などでご相談いただき、自習室のご使用は自粛をお願いいたします。

◆事務室各対応時間

〈電話〉9：00～17：00（水曜日を除く）

〈メール〉9：00～17：00

◆ご協力のお願い

- ・レポート、各種証明書の申込等は、郵送での提出にご協力ください。
- ・入構が可能となりましたが、引き続き、電話・メール・郵送での質問

・ご相談にご協力ください。

注) 図書館（国見キャンパス）等については、本学図書館ホームページ
（<https://www.tfu.ac.jp/libr/>）でご確認ください。

ご卒業おめでとうございます

教員 MESSAGE

通信教育部長・教授 三浦 剛

ご卒業おめでとうございます。

独りで、そして仕事を持ちながら、あるいは子育てや介護をしながら通信課程で学ぶには、強い意志と多くの努力が必要だったことでしょう。特に今年はコロナ禍の中、皆さんのこれまでの努力に心より敬意を表します。くわえて、皆さんを支えてこられたご家族やご友人、職場の方々にも心よりお礼申し上げます。

「学ぶとは、いつでも何かが始まることで、終わることのない過程に一歩踏み込むことである。」(林竹二『学ぶということ』国土社) 教育者、教育哲学者として有名な林竹二先生のことばです。

ちょうど10年前の震災、そしてこの疫病の流行と、これまで歴史上の出来事ととらえてきたようなことが現実に関起り、私たちは激しく変化する環境の中で、日々生じる問題に対処し、生活しなくてはなりません。まさに「状況の中の人」であることを実感します。このような状況を乗り越えるには、まさに学び続けることが必要です。大学を卒業し、新たなステップに向かわれる皆さんは、今日からまた終わることのない、学びの過程に進むのです。

また、大学では、いかに世の中の状況が変わっても、変わらないことの学びもあったはずです。その一つは本学の建学の精神「行学一如」です。実践と研究は一体であるという意味です。一体であるということは、学んだ知識や理論は、現実の実践や経験において常に検証され、修正され、より確かなものになっていくということです。変わることのない建学の精神

の中にも、実は、理論は常に検証され、修正される、すなわち学び、成長し、変化し続けるということが示されているのではないのでしょうか。

なお、本学の教育の理念は「自利利他円満」です。これは自己の利益と他者の利益が一致して、世の中が円満になるという意味で、「ともいき（共生）」の思想といわれています。価値観や個人の多様性が広がる今日、私たちは新しい考え方、新しい行動の仕方を探し出さなければならないでしょう。個々人がそれぞれを尊重し、その存在を認め合い、持てる力を出し合って支えあう社会、いわゆる包摂社会の実現が、現代を生きるすべての人の課題であることは間違いありません。これらの課題に対し、ここでも学び続けることが求められます。

大学での学びは、学び続けることを学ぶことだったのではないのでしょうか。本学での学びの核となる哲学「行学一如」と「自利利他円満」を胸に、変化し続ける世の中に漕ぎ出し、学びを止めることなく、すべての人が尊重され、ひとり一人を認め合う新たな社会作りに取り組んでください。

